



進路ガイド 第3章

小論文・作文編

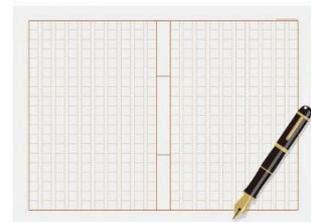
小論文のポイント

小論文とはどのようなものなのでしょうか？小論文とは、あるテーマについてあなたがどのように考えるのか(賛成や反対など)を論理的に文章化するものです。また、客観的に説得力をもった内容が書くことができるのかを評価される文章です。そこで受験者が気をつけるべきポイントはどのようなことでしょうか？形式から内容まで考えていきましょう。

【形式編】

小論文の形式は、基本的に志望理由書と共通している部分が多いので確認しておきましょう。

- ① 文がねじれないようにする
- ② 文体を統一する(～だ。～である。)
- ③ 口語的表現は避ける
- ④ 字数



以上の項目は、小論文を書く上でも基本的な形式になります。せっかくの良い構成や内容で書かれていても、**形式が正しくない場合は、低い評価につながる場合があります。**基本的な形式を押さえた上で書いていきましょう。

ただし、小論文では**根拠(理由)を示して主張(意見)を述べる形が基本**なので、接続詞をうまく使うことが求められるので、以下のような表現は覚えておきましょう。

- 「だから、したがって」⇒ 根拠の後ろで使う。
- 「しかし」⇒ 前と逆のことを述べる。筆者の主張にもつながる。
- 「また、さらに」⇒ 付け足す際に使う。
- 「つまり」⇒ 言い換える時に使う。
- 「例えば」⇒ 例を挙げる。
- 「一方」⇒ 何かと何かを比べる時に使う。

【内容編】

〔作文との違い〕

小論文は作文と何が違うのでしょうか。この違いを知っておくことで、書く前からのイメージを持つことができます。簡潔にまとめてみると下のようになります。

	作文	小論文
文の特徴	主観的 (自分だけの感想)	論理的・客観的 (みんなが納得する内容)
文の作り方	自分の感想や主観をもとに書く	根拠(理由)をもとに自分の主張(意見)を書く

以上のように、作文は主観的で自分の感想が中心ですが、小論文はテーマに対する自分の意見を客観的(誰もが納得するよう)な理由を添えて、「～なので～だ」と書いていきます。では、実際に例文を見てみましょう。

例えば「ボランティアについて」で「ゴミ拾い」を例にしてみると以下のような違いが考えられます。

私は中学2年生の時にクラスの人たちと街中でのゴミ拾いのボランティアに参加しました。特に歩道を中心に掃除しましたが、空き缶やペットボトルの多さにびっくりしました。みんなで協力して3時間ほど掃除をしました。友達と協力して、ゴミを拾う係と袋を運ぶ係に別れて取り組むなど仲良く進めることができました。街中は最初の時より綺麗になっていたのが気持ちよく終わることができました。その日はとても暑かったので汗だらけになり、ジュースをたくさん飲みました。友達と話をしながらできたのでとても楽しい思い出になりました。

特徴

- ・特に何かを言いたいわけではない。(意見がない)
- ・体験や事実をそのまま述べている。
- ・自分の感想が多い。(主観的)
- ・表現がぐだけている。



ボランティアに取り組むことは、自分のためだけでなく社会貢献にもなるので積極的に参加するべきだ。

中学2年の夏にゴミ拾いのボランティアに参加した。思っていたよりもゴミの量が多かったが、協力しながら進めることができた。また、ゴミの量が減り、街が綺麗になっただけでなく、資源の再利用にも貢献できた。

このボランティアを通して、協力することの大切さを学ぶと同時に、リサイクル、リユースの意識をもつことができ、環境保全にも貢献することができた。今後でもできるだけ多くのボランティアに参加し、多くのことを学びたい。

特徴

- ・何か自分で言いたいことがある。(意見がある)
- ・「～なので～だ」というふうに論理的に書かれている。
- ・自分の感想(「楽しかった」など)が少なく、事実を材料にしている。(客観的)
- ・表現が「～だ。～である。」で統一されている。

[構成]

基本的な構成は、序論、本論(場合によっては2つに分割)、結論の3つの要素から成り立っています。それぞれの特徴をまとめてみると以下のようになります。

- ① 序論(15%程度):方向性
- ② 本論(70%程度):根拠、例
- ③ 結論(15%程度):まとめ



以上の項目が小論文の基本構成として考えられますが、各項目についてももう少し詳しく見てみましょう。

① 序論(15%程度)

序論の段階では、テーマに対する方向性(自分の主張)をはっきりさせます。例えば「あなたは～についてどう考えるか。賛成か反対の立場を明確にし、述べなさい」に対しては「私は～について賛成だ。～」のように自分の立場(意見)を示しながら進める段落になります。

② 本論(70%程度)

本論では、自分の意見の前に反対の立場の意見に耳を傾け(譲歩)、その後に「しかしながら～」(逆説)の形で自分の主張に繋げると視野の広い意見を作ることができます。その後、主張の根拠や具体例で、結論に向けての説得力のある展開をつくりあげます。上の例で考えると、「なぜ～に賛成」なのかを具体例などを交えながら根拠(理由)を述べていくことになります。根拠がしっかりと書くことができれば、結論にスムーズに繋がり、締めくりやすくなります。

③ 結論(15%程度)

結論では、本論の根拠をもとに、テーマに対する主張でまとめます。これは最初の序論の部分で「～について賛成だ」を、本論で述べた根拠を説得材料として再度主張する場面です。例えば「以上のことから、～なことが言える。そのため～には賛成だ」という形で序論での主張を、表現を膨らませながら述べる部分です。

次は実際に小論文を書いてみましょう。

テーマ: 環境問題を意識した生活が定着していますが、近年は特に「脱炭素社会」を目指す取り組みが行われてきています。こうした「脱炭素社会」への取り組みに対して、自分の考えを 800 字以内で述べなさい。

まずは、構成用のメモを作ってみます。

序論①②⇒自分の意見の明確化(賛成? 反対?)

「脱炭素は、生態系維持に不可欠」

本論③ ⇒主張と反対の主張や状況

「大量生産、大量消費社会」

④ ⇒自分の意見につながる内容

「二酸化炭素の排出量を減らす取り組み」

⑤⑥⇒具体的な方策、例

「3R」「製品の普及」

結論⑦ ⇒序論で述べた自分の立場を再主張して締めくくる

「自分ができる活動に参加すべき」

これらをつなぎ合わせて、肉付けをして書いてみると



近年、地球環境は著しく変化している。二酸化炭素の増加は、生態系の破壊に大きく影響を与えつつある。その中で、①脱炭素社会を目指すことは不可欠であり、SDGs のテーマとしても取り上げられているように、国の枠を超えた②世界的な課題として取り組む必要があると考える。

現代では、生産性や利便性を追求していった結果、多くの国や地域が③大量生産、大量消費を中心とした社会になった。しかしながら、同時に大量の二酸化炭素が排出され、④地球温暖化を始め生態系を脅かす結果となり、生物に対して直接的な脅威を与えている。

持続可能な社会を目指して、私たちは国や政治の枠を超えて、二酸化炭素の排出量の減少を目指すべきだ。二酸化炭素には「温室効果」があるため、地球温暖化をもたらす原因となる。また、石油などの化石燃料には限りがあり、持続可能な社会構造を作ることはできないからだ。これらの問題を解決する具体的な手段として、1つは、大量生産を見直し、リサイクル、リユース、リデュースなどの⑤3Rと呼ばれる取り組みを進めることで二酸化炭素の減少を目指すことだ。また、化石燃料の消費を減らすためにハイブリッドカーや電気自動車など⑥二酸化炭素の排出量を減らす製品の普及を促す取り組みをすることだ。これらは、国家レベルから所属組織、個人のレベルまで、またあらゆる世代の消費者が取り組むことができ、さらに、国家間の壁を取り払って活動することもできるため、自分ができる取り組みに積極的に参加すべきだ。

以上のことより、脱炭素社会を目指すことで、私たち人間や他の生物の生存を守ることができる。そのためには自分たちは何ができるのかという意識を常に持ち、各々が具体的に考え、それを行動に移す必要がある。⑦個人の小さな活動を各自が行うことで大きな力となり脱炭素社会作りに貢献できるのではないかと考える。(770 文字)

テーマ:小学生が携帯電話・スマートフォンを持つことの是非を、800 字程度で述べなさい。

まずは、構成用のメモを作ってみます。

序論① ⇒自分の意見の明確化(賛成? 反対?)

「小学生がスマートフォンを持つことに反対」

本論② ⇒主張と反対の主張や状況

「小学生の居場所を確認するのに便利」

③④⇒自分の意見につながる内容

「自己抑制が難しい」「スマートフォン中心の生活」

結論⑤ ⇒序論で述べた自分の立場を再主張して締めくくる

「スマートフォンではなく、対人コミュニケーションを増やす」



これらをつなぎ合わせて、肉付けをして書いてみると

携帯電話やスマートフォンは、1人に1台といっても良いくらい私たち高校生に普及している。また、ほとんどの大学生や社会人の人たちもスマートフォンを持ち歩き、時間があればSNSのチェックや動画を楽しんでいる。しかし、私は小学生が携帯電話やスマートフォンを持つことに反対だ。

確かに携帯電話には様々な機能が備わっており、②小学生の居場所を確認するのに便利な機能もついているため、保護者にとっては子どもの居場所が分かり安心できるかも知れない。しかしながら、現在はGPS端末なども普及しており、必ずしもスマートフォンを利用する必要性はない。ある調査によると、高校生のスマートフォンの利用時間は平均して5～6時間と言われている。利用内容はメッセージのやりとりや、動画サイトの閲覧だけでなく課金しながらのゲームの利用も多いという結果も出ている。また、「スマートフォンがないと不安」という、いわゆる「スマホ依存症」とも言われる傾向も見られる。小学生は発達段階としても③自己抑制をすることが難しいため、ゲームの課金システムなどにおいても際限なく課金してしまうことも考えられる。また、小学生は高校生よりも授業時間が少ないため、スマートフォンに費やす時間が高校生よりも多くなる可能性が高く、結果として④スマートフォン中心の生活になってしまい、成長過程に必要な対人コミュニケーションの時間や機会を十分に確保できないことにつながってしまう。そういった意味でもSNSなどでコミュニケーションが偏ってしまうのは良くない。

以上から、小学生が携帯電話やスマートフォンを持つことは、生活の基盤を大きく変えてしまうことになり、悪影響を及ぼす可能性が高い。成長段階として重要な時期にあたる小学生にとって、⑤携帯電話やスマートフォンの利用ではなく対人コミュニケーションの機会を増やすことが重要であると考えられる。(781文字)

上記の小論文のパターンは賛否を問う形式のもで、構成もいくつかある中の1つを取り上げて示しています。また、小論文の出題形式には他にもいくつかのパターンや書き方があります。代表的な出題形式と構成例をまとめると以下のようなものが見られます。

[賛否を問う形式]

- 序論 ⇒ 意見(賛否)の明確化
- 本論 ⇒ 反対意見
 自分の意見
- 結論 ⇒ 自分の意見の再主張

[社会問題を問う形式]

- 序論 ⇒ 現状、事例の説明
- 本論 ⇒ 問題点の究明
- 結論 ⇒ 問題点に対応した対策の提示



[体験談ベースの形式]

- 序論 ⇒ 体験談
- 本論 ⇒ 体験談の分析
- 結論 ⇒ 設問に対応した主張のまとめ

[資料を使った形式]

- 序論 ⇒ 資料をまとめる(何がテーマなのか読み取る)
 自分の意見の明記(簡潔に)
- 本論 ⇒ 自分の意見の根拠
- 結論 ⇒ 自分の意見の主張

[図表を使った形式]

- 序論 ⇒ 図表をまとめる(全体の傾向、特徴的な部分)
 自分の立場の明記(簡潔に)
- 本論 ⇒ 自分の意見の主張
- 結論 ⇒ 自分の意見の再主張



これらの構成はあくまでも例ですが、自分の進路先の過去問題の傾向を分析し、自分なりにどのパターンで書いていくかという引き出しを作っておくことが良い結果への近道です。何度も練習し、自分の意見が論理的に書かれているか、説得力があるかを添削してもらいましょう。

作文のポイント

小論文と作文の基本的な違いは、小論文の冒頭で説明していますが、就職試験での作文は企業に提出するという意味で、いくつかのポイントがあります。形式面と内容面に分けて見てみましょう。

【形式編】

小論文と共通している部分は多いですが、以下のことを確認しておきましょう。

- ①文体をそろえる
(「～です。～ます。」⇒ 柔らかい印象
「～だ。～である。」⇒ 少し堅い印象)
- ②丁寧な字で書く(仕事に対する姿勢をイメージされます)
- ③段落を分ける(序論、本論、結論)

【内容編】

[構成]

基本的な構成は、序論、本論、結論の3つの要素から成り立っています。それぞれの特徴をまとめてみると以下のようになります。

- ①序論: 主張したい内容を簡潔に書く
- ②本論: 経験や具体例と自分の考え方を書く
- ③結論: 序論の内容への答えを書く
※できれば企業との関連



企業は受験者の何を見るために、作文を課すのでしょうか？企業は受験者の人間性(性格)、企業の理念とのマッチングを見るために作文を書かせるのです。そのためテーマが何であれ、前向きに書いているかが大切な条件になってきます。プライベートな内容ではなく仕事に関係させることで、イメージが伝わりやすくなります。

[就活の作文テーマ例一覧]

- ・自分の将来
- ・自分にとって働くこととは
- ・自分の体験談
- ・最近読んだ本
- ・学生時代にがんばったこと
- ・最近のニュースで関心を持ったこと
- など

では、例文を見てみましょう。

テーマ:「自分の将来」というテーマで作文を 500 字程度で書きなさい。

まずは構成をまとめると

- ①序論:主張したい内容を簡潔に書く
 - ①「周りの人を笑顔にできるような人間」

- ②本論:経験や具体例と自分の考え方を書く
 - ②「クラスメートが声をかけてくれ、笑顔が増えた」
 - ③「自分を周りの人を笑顔にしたい」

- ③結論:序論の内容への答え、前向きな姿勢(熱意)を書く
 - ※できれば企業との関連
 - ④「お客さんに笑顔になってもらう」
 - ⑤「一生懸命努力したい」
 - ※「接客業」



これらをつなぎ合わせて、書いてみると

私は将来、①周りの人を笑顔にできるような人間になりたいです。周りの人の笑顔を見ることで、自分も幸せな気持ちになれるからです。

私は中学生の頃に、他の県からこの町に転校してきたため、クラスで友達を作ることに苦労し、不安な日々が続いていました。そんな時にあるクラスメートが「一緒にお弁当食べない？」と②声をかけてくれました。そのことがきっかけで、クラスに友達ができ、少しずつ馴染むことができました。その友達の親切な言葉のおかげで、私の不安が消え、②笑顔が増えました。相手のことを考えた言葉や行動は必ず相手に伝わると思います。それから、私も③周りの人を笑顔にできる人になりたい、自分も困っている人に声をかけることを心がけるようになりました。

私は将来、※販売という形で接客業をしたいという希望があります。販売の仕事はただものを売るだけでなく、商品の良さを伝えたり、アドバイスをしながらお客さんに接することが大切です。その際に本当に④お客さんの気持ちを考え、接客することで笑顔になってもらうことができると思っています。自分の行動で笑顔を増やすことができる人になれるように、⑤一生懸命努力したいと思っています。(477文字)

作文は、就職を希望する企業に自分をアピールする大切な機会です。自分の良い面を十分に出来るように練習しておくとう良い結果につながると思います。